新潟市民のお口の健康を守るために活動しています。

新潟市歯科医師会通信

新潟市歯科医師会　平成30年3月発行

新潟市歯科医師会活動報告

新潟市 口腔（こうくう）保健福祉センター

指定管理者：新潟市歯科医師会　http://ii-ha.net/k-center/index.html

当センターは、新潟市が設置した施設であり、新潟市歯科医師会が管理運営を行なっています。

日曜・祝日に歯が痛くなったら
急患診療

障がいのある方などの歯科治療
特別診療

一般の歯科医療機関では診療対応が困難な、障がいのある方やご高齢の方の口腔保健の向上を図ることを目的として、

（1）予防や治療、機能療法など総合的な歯科医療の提供
（2）地域医療連携（症状によっては、大学病院や地域の開業医への紹介）を行なっています。

新潟市口腔（こうくう）保健福祉センター

〒950-0914 新潟市中央区紫竹山3-3-11　新潟市総合保健医療センター４階
● 診療時間はお電話にてご確認・ご相談ください。

当センターの受付は４階にあります。入口右手奥のエレベータをご利用下さい。

TEL 025-212-8020　FAX 025-246-5675

交通案内

※弁天I.Cは、新発田方面からは降りられません。
●道路をはさんで100台分以上の駐車場があります。
建物脇にも６台分の障がい者用駐車場があります。

バスご利用の場合

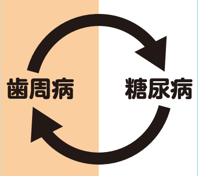
JR新潟駅南口 １番のりば
イオン新潟南経由南部営業所行
新潟市民病院行
▼
バス停「紫竹山」下車 徒歩約７分

車の場合

【新発田・亀田方面より】
新潟バイパス 紫竹山ICより約５分
【黒埼方面より】
新潟バイパス 弁天ICより約２分

糖尿病は歯周病を悪化させ、歯周病は糖尿病をさらに悪化させる事から、歯科医師会では医師会と連携して糖尿病の患者さんに対し、歯周病の治療･管理を積極的に進めています。「糖尿病認定歯科医師」は医科･歯科と連携しながら患者さんの糖尿病･歯周病の改善に務めています。

http://www.ha-niigata.jp/search/tonyo.html



歯科医師会活動報告

第38回　歯と口の健康フェア

本年度で38回目となる「歯と口の健康フェア」が平成29年6月4日（日）イオンモール新潟南店マリンコート内で行われました。例年と趣向をかえ「市民の皆さんへの啓発」を最優先に考え、テーマを「歯と口からアンチエイジング」として歯科医師会・技工士会・衛生士会の三つの会を軸に新潟市・新潟大学・材料商他・歯材メーカーのご協力の元スタートしました。

私達歯科医師会はパネル展示と動画で歯とお口の健康について理解ができるように、アンチエイジングをお口の中からどう考えるのかを訴えるためのパネルを新潟市歯科医師会独自で作成し市民の皆さんへ啓発しました。思ったより熱心に見て・質問してくださり好評のうちに終えることが出来ました。

「通院できないから・・・。」
あきらめないでご相談下さい。

在宅歯科医療連携室は、市民の皆様と歯科診療所をつなぎます。
相談は無料です。
お気軽にご相談下さい。

お家で歯の治療ができます！

お宅に要介護のご家族がいらしゃって歯が痛くなったり入れ歯の調整が必要だったりして、どこに頼んだらいいのか困ったことはありませんか?かかりつけの歯医者さんか担当のケアマネさんに相談するのが早いかもしれませんが、歯科医師会の連携室にご相談ください。

歯医者さんへ通院する事が難しくなったかたに歯科医師や衛生士がお宅にうかがっての歯科治療やお口のお掃除を行うようなシステムができあがってきています。近くに西特別支援学校もありますが、発達障がいも含めて、障がいのあるお子さんに対応できる歯科医院も紹介できます。すべてこの

新潟市の連携室025-244-5231に

お電話していただければ対応いたします。
お困りになりましたら是非!利用してください。

各区活動報告

北　区

北2班は旧市歯会と合併する以前から会員同士の交流が密であり、特に今年からは移動講演会と銘打った会合を、班の親睦旅行に替わって導入しております。去る9月、バスに参加者全員が乗車し、会場までの道中から時間と空間を共有することで、よりいっそうの親睦を図るとともに、講師に北蒲原郡歯科医師会より佐藤格夫先生(聖籠町開業、歯学博士)を招聘、会員の診療レベルアップにも貢献できていると自負しております。年あたり7～9回もの常会を開催している上、メーリングリスト、SNS、ファックス網を駆使、簡単な告知、報告などはオンラインで済ませ、常会の議事録や配当表などの会員が頻繁にアクセスする情報はクラウドストレージで利用されております。

以上のことから、当班において会議としての常会は、完全に形骸化しているわけですが、では、ただ集まって飲みまくるだけかと問われればさに非ず、飲みニュケーションの形態をとりつつも、忌憚のない異見が飛び交う大切な場になっており、当班特有の非常に風通しが良い環境づくりの基本となっています。今年からの目玉事業としては、市民への啓発、非会員対策を目論んだ北2班独自のFacebookページ、ブログページの構築も始まり、来年はさらに活発に交流することになるでしょう。

福島県母畑温泉にて

西蒲区

毎年恒例の岩室産業まつりに併催して岩室健康展が行われました。あいにくの雨模様で、屋外で行われる予定だったフリマーケット、屋外でのアトラクションはすべて中止となり来場者も激減するのでは?と危惧されたものの開始時間前にはすでに来場者でいっぱいとなり一安心しました。新潟市西蒲区の健康面の課題として、少子高齢化が新潟市8区の中でも著しく、脳血管障害の発症率が高い。塩分の摂取量が多い。間食する回数が多い。運動習慣が無い。飲酒・喫煙習慣がある。特定健診の受診率が低い。など生活習慣病から要介護に至る傾向が強い地域です。今年度の歯科ブースのスタッフは「健口で延ばそう健康寿命!」という事を来場者に伝えたいと、接する事としました。歯科ブースのイベント参加内容は、歯周病と全身疾患などのパネル展示と歯科医師による無料歯科相談、衛生士による歯磨き指導、口腔ケアの器具と使い方の紹介、咀嚼力判定ガムの体験などを行いました。お口と歯の健康は全身の健康へとつながる事。すこやかなお口無しに健康寿命の延伸は図れない事を訴えました。さらに11月は「にいがた健口文化推進月間」であることを伝え、健口文化の醸成を目指す、まさにその第一歩として常に歯ブラシを携帯しましょう。またデンタルフロス、歯間ブラシなどの補助器具を使いましょう、という事をお伝えしました。イベント自体は10時から15時と公示されているものの今年も朝9時過ぎには来場者があり対応しました。西蒲区の健康寿命を延ばそうという健康体操も会場内で行われ私達スタッフも参加して市民の皆さんと和気あいあいと触れ合う時間を過ごせました。

中央区

平成29年度関屋・白新地域ケアネット全体会が平成30年1月27日(土)14:00-17:00・総合福祉会館　5階大集合室に行われた。演題としては堀川内科・神経内科医院院長　堀川　楊(医師)先生より「パーキンソン病の病態と治療の工夫」というご講演をいただいた。歯科からはハート歯科クリニック院長　豊里　晃(歯科医師)より「口腔ケアと嚥下機能回復に向けた工夫について」といったパーキンソン病に関する症例提示をした。また押木内科神経内科医院　大野　智也(理学療法士)さんより「リハビリテーションの必要性やその工夫について」と3人の先生方よりご講演を頂戴し、症例を通じ医療・保健・福祉にかかわる人々が、地域住民を看ていく上で互いに協働しやすくなるよう、顔の見えるネットワークを構築する活動に繋がるのではないか。また、ネットワークを継続することで、地域内で生じてくる問題を解決する力を、地域内でつけていくことを図っていく上で有意義な研修会となった。

各区活動報告

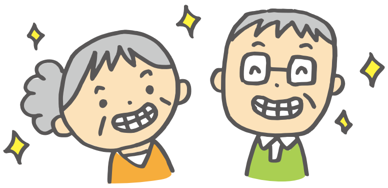
南　区

南区保健医療福祉のつながりを深める会は、地域の基幹病院の一つである旧白根健生病院（現新潟白根総合病院）において、在宅ターミナルケアの取り組みを行うにあたり限られた人的資源から医師、看護師、医療ソーシャルワーカーがチームを組み、試行錯誤を繰り返す中で種々の課題に対処していくには、地域との連携が不可欠であり、地域住民との顔の見える関係性を構築すべく発足した会であります。現在では医療、介護、福祉それぞれの専門職に加え、広く一般市民や行政をも巻き込み地域共生社会の実現を目指し活動を行っています。具体的には、年2回の講演会とそのテーマを題材としたグループワークを通して、南区における包括的支援の強化、地域の課題解決力の向上を図っています。平成29年においては、去る2月5日白根学習館ラスペックホールにて、福井県おおい町名田庄診療所所長　中村伸一先生をお招きし、地域医療を通して村を在宅医療の理想郷へと導いた20年間の歩みについてご講演いただき、我が地区で日ごろ抱える課題の解決策への糸口を見出す良い機会となりました。2つ目は、9月2日新潟大学大学院医歯学総合研究科国際保健分野准教授、菖蒲川由郷先生にお越し願い「新潟市健康とくらしの調査」から見える南区の現状　と課題について、詳細なデータをもとにレクチャーを賜り、その後地域分けされた小グループとなり現状の問題提起とその解決策、続いて10年後20年後を見据えた課題について、活発な意見交換が行われました。我々専門職だけでは見えてこない多くの意見に接することができ、地域包括ケアの充実には欠かせないより確かなネットワーク作りにつながる一助となりました。

近年誤嚥性肺炎や周術期の口腔ケア、摂食嚥下機能障害など口腔領域に関するニーズが高まりつつある中、歯科の特色を生かしこの会を通して地域に貢献できることは、この上ない喜びであります。

秋葉区

3月12日（日）、午前10時から「みんなの健康･介護NIC健康セミナー」が新津健康センター内、はつらつホールで開催されました。このセミナーは毎月1回、新潟県内の市町村で健康をテーマにして行われ、今回は新潟市秋葉区で開催されました。二部構成で行われ、第一部は「お口が延ばす健康寿命、知っておきたい秋葉区における医療･福祉の連携」と題して新潟市歯科医師会秋葉区1班会員、浅見浩之、曽根清和、2名が講師として講演しました。最初に講演を行った浅見浩之は「口から延ばそう!健康寿命」というテーマで、歯の健康と健康寿命との関係、口腔ケアの重要性、誤嚥性肺炎について講話がありました。次に講演を行った曽根清和は「地域が支える健康寿命」というテーマで地域連携･多職種連携、むすびあい手帳、秋葉住民の相談窓口、フレイルの予防、医師だけでなく歯科医師、薬剤師を含めたかかりつけ（家庭医）の重要性について講話がありました。第二部は健康相談会でセンサーによる「血管年齢測定」、測定器による「聴力測定」、「下肢筋力測定」、「お肌の水分チェック」など行い、健康チェックを実地しました。また、今使っている補聴器の相談、お薬についての不安や疑問などに対して技能者と薬剤師による専門員が対応しました。日曜日の午前中の開催でしたが、ほぼ満席で、秋葉区だけでなく、五泉市などの近隣地域から参加された方もいまして、歯の健康と健康寿命についての関心の高さが見られました。また今回のNIC健康セミナーで「お口が延ばす健康寿命」というテーマで歯の健康が健康寿命に非常に関係するということを焦点にした講演を通して、区民の皆さんに健康寿命を延ばすために歯の健康の重要性を周知できたと思います。



各区活動報告

江南区

平成29年10月15日、江南区亀田神明町の亀田地区コミュニティセンターで「歯と口の健康を楽しく学ぶこうなん健康フォーラム」が開催されました。

主催は新潟市歯科医師会江南班と明倫短期大学、共催は新潟市在宅医療介護連携ステーション江南、新潟市江南区健康福祉課で一同協力しながら準備を行いました。

また、当日は同所で認知症カフェも開催しており参加者一同が集いを目にすることができたので実際に周知できたのは良い機会だと思いました。

健康フォーラムは第一部と第二部に分かれており、第一部の講師は丸山歯科医院の丸山利彦先生が専門家・家族に向けて「介護のお口のお手入れはどうしよう?in江南区」を講義して下さいました。江南区在宅医療・福祉ネットワークについての概略や江南区の専門職で考える認知ケアを他職種と顔の見える関係で構築している現状のお話は、江南班会員として頼もしい限りでした。また口腔ケアについてのお話も第二部の講座につながる様な分かりやすい講義で、専門職の方や一般の方も真剣に受講していました。途中、お手伝いに来たスタッフが貧血で具合が悪くなる等のアクシデントもありましたが、以降は問題なく第一部講義は終了しました。

第二部は介護や医療職向けの特別講習・セルフケアの簡易トレーニングと歯科相談・口腔ケアが困難な方へのアプローチの3つの選択講座が開催されました。

介護や医療職向けの特別講習は、新潟大学大学院医歯学総合研究科・摂食嚥下リハビリテーション学分野の辻村恭憲先生が「嚥下のスクリーニングテスト講習」を講義して下さいました。反復唾液嚥下テストや聴診器を使用した改訂水飲みテストなどの実習を交えたお話は大変興味深いものでした。

セルフケアの簡易トレーニングと歯科相談は、明倫短期大学の涌井英恵先生が「体験しましょう!スマイルトレーニング」と江南班の風間武先生の「なんでも歯科相談」をそれぞれ一般受講者向けに講義と実習を交えてお話して下さいました。自分で行うスマイルトレーニングで受講者のモチベーションを上げ、参加した方々に対して質疑応答の歯科相談は非常に楽しいものでした。

口腔ケアが困難な方へのアプローチは明倫短期大学の牧野真理先生が「認知症の方への口腔ケア」をお話して下さいました。専門職の方や家族に向けての講義は実際の現場での対応についての動画を見ながらの説明で具体性のあるお話でした。

健康フォーラムを無事に終えることができ、こうして活動報告を書いていて思ったことは、一般の方や他職種の方々を交えた講義は我々歯科医師にとって有意義な物であるということです。事前に知っている知識であっても見方を変えれば一般の方や他職種の方の考え方や知識がどのような物であるかの把握にもなります。近年、新潟県の介護保険の事業報告によれば第一号保険者(65歳以上)は67万人、要介護認定を受けているの、は12万人いると言われているので、5～6人に1人の割合で支援・介護を受けているのが現状です。我々は望む望まないに関わらず介護に関わる人達とコミュニケーションをとらなくてはなりません。そのためには今後も地域活動を盛り上げていく必要があると思いました。

西　区

2017年9月3日(日)、晴天のもと、寺尾中央公園にて「ふれあい坂井輪祭り」が開催されました。新潟市歯科医師会の西区1・2班は、合同でこのお祭りに参加し、地域との交流を図っています。今年も例年通り、歯の健康クイズ5題に答えていただき、答えあわせを行いながら参加された地域の方々とコミュニケーションをとりました。お年寄りから家族連れ、小、中学生のグループなど様々な方々が参加され、リピーターの方も増えています。また、患者さんからも声をかけられたりして、診療室の中とは違った距離感で患者さんと話が出来るのもこのイベントの魅力です。今年度は歯周病と全身の病気との関連性について問題を設け、口腔内のケアーやメインテナンスの重要性について解説させていただきました。200人以上の方に参加していただき盛況でした。

各区活動報告

東　区

にいがた地域食支援ネット「第2回なんでも相談会みんなの輪・話・WA」が平成30年1月22日（月）に、みどり病院にて開催されました。講演は

①「施設入所者の経口摂取維持のための取り組み」
女池南風苑　言語聴覚士　青木治朗先生、永井賢治先生による講演

②中央区病院、施設における食形態マップ作成ワーキンググループの活動状況について
みどり病院医師 斎藤 泰晴先生

③本日のテーマについて最近気になっていることをグループでディスカッション

という事で住み慣れたこの新潟の地域で、フレイル予防のカギの一つである「食」を支えることで、適切な栄養管理のもと、安心、安全にお口で食べることを維持しつつ食を楽しんでいただくお手伝いができるネットワークづくりの一ステップを踏みしめることが出来たのではないかと考えています。

にいがた地域食支援ネットのサイトをご紹介いたします。
http://ozya40.wixsite.com/mysite

「新潟県立大学との連携」という事で、大学の地域連携室を窓口に平成29年11月9日（木）、健康栄養学科の村山伸子教授と「公衆栄養」をテーマに市歯会の今後の活動方針を説明し、協力を了解頂きました。栄養学では昨今、”公衆栄養”という概念で社会への対応が行われています。老齢者の栄養バランスの偏り、必要摂取カロリー不足等へポピュレーションアプローチとして栄養学の観点から検討する事です。生活困窮者、とりわけ児童への対応を考える時に必要な考え方です。これをステップに、次年度は公衆栄養の観点からの県立大学の参加のあり方について検討していきます。

高齢者対応：オーラルフレイル対策、児童対応：孤食、こども食堂等への対応、若者：必要カロリー不足への対応の観点から私達歯科医師も公衆栄養の考えに参加していく事になります。

一般社団法人 新潟市歯科医師会　会長：岡田 匠
〒950-0914 新潟市中央区紫竹山3丁目3番11号　新潟市総合保健医療センター4階
TEL：025-244-5231　FAX：025-244-7221
Mail：info@ndnw.or.jp　ホームページ：http://ii-ha.net/